

旧街道ウォーク338★古代東海道[28] [古代東海道 2008 その7]「向原～三ノ輪」

活動記録

【日 時】2008 年 10 月 19 日（日）11:00～17:50 曇り

【コース】向原（千川駅）→ 大山 → 板橋＜昼食休憩＞ → 滝野川 → 西ヶ原（平塚神社）→ 田端（文士村記念館）→ 三河島 → 三ノ輪橋＜日没終了＞（10km）

【参加者】○大竹亮、△井手幸人、伊藤貴敏、片桐拓朗、加藤栄子、北橋伸一、児山文一、清水俊哉、斎藤健一、高梨健一、長澤純一、古里実、松野栄明、水谷晴子、矢作峰子（15 名）（○は主催者、△は部分参加）

【概況説明】

10 月に入り急に涼しくなった曇りの日でしたが、豊島・板橋区境の向原(千川駅)からスタートしました。鎌倉街道との変則交差点から北北東に向かう道を進み、大山商店街へ。ここからしばらく旧川越街道にあたる道を東へ進みました。板橋駅付近で昼食休憩ののち、板橋/北区の境を進んで中山道へ。その先、都電荒川線を越えてから道音坂を下り西ヶ原の豊島郡衙跡へ到達、平塚神社へ立ち寄りしました。尾根筋に沿った一本道を東南東へ進み、富士見橋で山手線を越え田端までの間、武蔵野台地から東方面の低地が眺められます。田端駅の先で台地を下りて西日暮里から東へ向きを変え、三河島コリアンタウンを抜けて三ノ輪にて日没終了となりました。

【評価結果】

古代官道らしさについては、尾根道として曲がっている所が多く、低い評価となりました。沿道風景については、建物、商店、地形などのアイテムを挙げた人が多く、評価も他の項目より高くなりました。古道の史跡については、全体的に少なく低い評価となりました。歴史の案内表示もやや低い評価で、古道の案内が少ないという意見が多数ありました。しかしながら、全体を通じての評価点は 3.20 で、平均よりもやや高い評価が得られました。これは、沿道風景が変化に富み、風物にも情緒が感じられることの反映と思われます。



旧千川上水路の並木道を歩く



夕闇迫る三河島の高架線下を行く

【参加者の評価結果】

1 ◆全体を歩いた感想 評価点 (3.20) 内訳 AABBBBBBBC

A : コメント : 東京の山の手から下町に移る地域を歩いた。山の手台地上は住宅地の尾根道であり、下町低地に入ると東へ一直線に向かう道となる。大山や三河島・三ノ輪の商店街、田端文士村、西ヶ原の平塚城址など、沿道の風物にも情緒が感じられる。

A : 主に大きな通り沿いにある高層マンションと、昔ながらの木造家屋の対比が面白かった。混在しているのがいかにも東京らしく、そういう空気に触れられたことがうれしかった。

B : 地形の変化がよくわかるコースであった。

B：都会の割には緑が多く、落ち着いた地域の道だった。田端や西日暮里で低地に下りた際に台地上の道であったことが実感できた。

B：古代道路を感じさせるところはあまり無かったが、バラエティーに富んでいて面白かった。家の近くを通ったので、懐かしい場所がいくつもありました。

B：古代東海道という観点からは、まあ、こんなところかなといった感じです。やっぱり、古代東海道を少しでも正確にたどるのは難しい。それ以外の鎌倉街道や川越街道、大山道などはたくさんあって面白かった。

B：いくつもの鉄道線を越えていくコースどりが、面白かった。

B：9キロという距離の割には結構つかれました。台地上の旧川越街道、旧中山道、旧岩槻街道から、低地部のコリアタウン三河島、三ノ輪まで見どころが多かったからでしょう。

B：久しぶりに長い距離を歩いたので疲れました。

C：道そのものは魅力に乏しかったが、初めて歩くコースで、新鮮だった。川越街道や中山道など過去歩いた道とのつながりもよくわかった。六阿弥陀詣で有名な無量寺、田端文士村、道灌山など見所はそれなりにあった。

2◆特に魅力的だったところ

○向原の鎌倉街道交差点：6～7差路という珍しい(重要な)辻であり、古代東海道、中世鎌倉街道、近世千川上水が交錯している。路傍の石仏がこの地の重要性を証言し、風情を沿えている。

○板橋高校横の桜並木：落ち着いた並木道だった。桜の木が覆いかぶさるようだったのが良い。

○板橋高校脇の桜並木：桜の咲いているときに来てみたい。(板橋高校は、吉本ばなさんの母校だそうですね)

○板橋第六小学校：(出身校の前で)記念撮影までしていただいて、恐縮至極であります。

○大山商店街の賑わい：活気のある商店街は歩いていてあきない。

○大山商店街：お祭りをやっていたことを差し引いても非常に活気がある。

○大山商店街：旧川越街道沿いの街がこんなに元気な商店街になっているのがうれしい。大山名物10円饅頭もおいしかった。

○大山商店街：旧川越街道であるが、とても賑わっている。急行停車駅でもないのに、なぜこのように多くの人が集まってくるのであろうか。

○滝野川の密集市街地：板橋区板橋1丁目と北区滝野川6丁目の境目あたりで、新しくマンションが建ち、セットバックのために道が2本のようになってしまった所があった。植込みが中央分離帯のようになっていたが、他の道もわざとこんなふうに植木が植わっていたら面白いのにと考えた。

○滝野川の密集市街地：魅力的とは少し違いますが、旧中山道と国道17号に囲まれた中に、防災上課題のある密集市街地が今も残っていることを再認識しました。

○首都高速5号線：板橋区役所付近と西巣鴨付近では、狭い旧街道が拡張され、上空に首都高速道路が覆い被さるという激変ぶり驚いた。



滝野川の密集市街地



首都高速高架下の旧道

○平塚神社：日光御成道(本郷通り)からまっすぐ伸びる銀杏並木の参道の先に佇む社殿は、質素ながら歴史の風格を伝えている。屋根の「扇に日の丸」が印象的。

○平塚神社：ケヤキ並木の長い参道が良かった。

○平塚神社：久しぶりに訪れたがいつも良い雰囲気。

○平塚神社：木の鳥居と親子の狛犬

○平塚神社：古代豊島郡衙が武蔵野台地の際にあり、はるか東京低地を見渡していたこと。

○平塚神社境内から覗いた蟬坂

○無量寺：六阿弥陀詣三番で賑わった歴史の場所。静寂に包まれた落ち着いた雰囲気がよかった。

○西ヶ原市街地住宅：バウハウスの理念を体現した戦後モダニズム建築の傑作。装飾を一切排したデザイン自体も美しいが、大通りに面して店舗を並べる都市性も高く評価したい。

○女子聖学院付近：三角形のチャペルと洋風の美容室、伝統和風の門構えなどが並んでいる。

○富士見橋と東台橋：武蔵野台地東端の上野台の細い尾根を切り通して、山手線やバス通りが通っている。その上の陸橋からの風景は、何ともダイナミックである。

○田端文士村記念館：文士村の概要がわかった。時間があればゆっくりビデオも見たい。

○田端文士村のあたり：散策するのに面白そうでした（もちろん古地図屋さんも）。

○田端付近からの眺め：東側の広い平野が見渡せた。昔はもっと広々とした眺めであっただろう。

○道灌山：田端～日暮里付近は東京の地形を感じさせる。台地を降りていく感じが良かった。

○道灌山：江戸名所図会に描かれたのどかな虫聴きの風景は見られなかったが、地形だけはよくわかった。

○常磐貨物線踏切：都内の広いバス道路に突然現れた踏切は、開通当初の常磐線だったという。現在も貨物線として延々と遮断機が下りて、長い長いコンテナ列車が通っていく。

○仲町通り商店街：下町らしい生活感のある商店街。コリアンタウンの趣もあり庶民派の町らしい。

○都電三ノ輪駅：賑わうジョイフル三ノ輪商店街の先にレトロ調に改装された都電の終着駅がある。表通りからは旧王電ビルの商店街を通り抜けて行くところも不思議な感じ。



旧公団の西ヶ原市街地住宅



女子聖学院チャペル

3◆古代官道らしさ（直線性、短絡性、古代史跡等） 評価点（1.80）内訳 ABBCCCCC

A：前回と同じように、おおむね府中（武蔵国府）から市川（下総国府）へ至る最短の道筋にある。台地では谷筋を避けた尾根道を取り、低地では一直線に東へ進んでいるのが明快である。台地東端には、古代豊島郡衙跡の平塚神社がある。

B：比較的直達性があつたと思う。ただ、一方で、かなり弧を描いているので、本当にこの経路なのかなとも思ってしまった。武蔵野台地から東京低地に下りるのは、あまりに高低差がきつすぎるので、さすがの古代官道も崖に沿う形でゆるゆると下るしかなかったと思う。

B：直線性には乏しかったが、尾根道が多かった。

C：大山道、北区と板橋区との区境の道、豊島区と北区との区境の道、道音坂（どういんざか）、豊島郡衙跡などに古代官道を連想することができた。

C：旧川越街道、旧中山道、旧岩槻街道を繋ぐ主に高台を通るコースとなっていたことや、平塚神社が印象に残る。

C：1本の古代街道としての感覚はあまりなかったが、地図上で見るとほぼつながっていると感じた。またほぼ尾根道になっていることや町境・区界などになっていた。

C：直達という印象は、あまり受けませんでした。

4◆沿道の魅力的な風景 評価点 (3.00) 内訳 AABBBBBBCC

A：千川上水の桜並木、大山の商店街、板橋の旧中山道、西ヶ原の住宅地、田端文士村、三河島・三ノ輪の商店街など、楽しい界隈が続いている。武蔵野台地の東端である西ヶ原、田端付近のダイナミックな風景は、東京の自然地形の妙味を感じさせる。

A：下町にはよくある風景ですが、玄関前などに植木鉢やプランター（というか発砲スチロールの箱）をたくさん並べているところ。また、大山商店街や三ノ輪橋のアーケード商店街など。いずれも人の匂いがたくさん感じられた。その他、魅力的というのとは少々違うが、上下2層になった中央環状線の高架橋。普通の民家の目の前を通っているのが不思議な感じだった。

B：田端付近の台地上からの眺めは良かった。板橋から西ヶ原にかけては、上にも道路が通り見通しがきかない。

B：私鉄、JR、新幹線、都電などいくつもの電車を見たことが面白かった。貨物列車を久しぶりに見た。

B：3つの旧街道をつなぐコースであり、台地から低地へと変化もあり見どころは多かったと思う。

B：やはり、武蔵野台地からの眺望でしょう。古代の人々も、はるか彼方を眺めたことでしょう。

B：板橋高校横の桜並木は落ち着いた道だった。

B：下町の風景がまだまだ残っており、昭和を感じました。

C：美しい風景は見られなかったが、富士見橋で見た鉄道が複雑に交差する光景や東台橋の下の切り通し道、左側が絶壁の道灌山ではダイナミックな地形を感じた。



中里付近の伝統的門構え



三河島の仲町通り商店街

5◆古道にふさわしい史跡 評価点 (1.80) 内訳 ABCCCCCCCC

A：西ヶ原には古代豊島郡衙が発掘されており、中世豊島城址(平塚神社)も隣接する。また、古社寺も数多く点在し、時代は下るが千川上水や江戸時代の街道も多い。

B：平塚神社

B：平塚神社、田端八幡神社（工事中で赤紙仁王像が見られず残念）など、結構あったように思う。

C：豊島郡衙跡、平塚神社、平塚城跡、田端神社などは古い史跡だった。

C：豊島郡衙跡周辺以外には遺構が少なかった。

C：豊島郡衙跡や平塚神社はあったが、寺社は少なかったと思う。

C：あまり寺社の数はなかった。平塚神社には歴史を感じた。

C：古代東海道にふさわしい史跡はなかったように思う。古代豊島郡衙跡の史跡を見たい。



西ヶ原・豊島城址の平塚神社



六阿弥陀・無量寺に至る道標

6 ◆古道や歴史の案内表示 評価点 (2.40) 内訳 BBBB BBBCCD

B：そこそこあったと思う。大山道や川越街道、道灌山の案内板もあってよかったのではないかな。道音坂、田端文士村、不動坂の案内標柱、三ノ輪の石川屋敷跡や宗屋敷跡の案内板などはありがたかった。

B：途中いくつかのポイントには案内がありました。

B：結構あったと思います。

B：田端文化村や平塚神社など、代表的なものは案内があった。大山商店街も旧川越街道と案内してくれると良いのだが。

B：歴史についての案内表示は多かったが、古代東海道に関するものは少なかったのが残念。

B：鎌倉街道、寺社に関する案内表示はあったが、古代官道に関するものはなかった。

B：坂や建物の説明は、要所、要所にあったと思いますが、古道の説明は記憶にありません。

C：案内表示はあまりなかった。

C：古代東海道にふさわしい案内表示はなかったように思う。

7 ◆古道を活用したまちづくりの方向について

○この地域は、江戸時代の川越街道、中山道、日光御成道、千川上水などに恵まれ、飛鳥山、道灌山、田端文士村、旧古河庭園など名所旧跡も多い。都電も走っている。これらをつなぐ古代東海道を歩きながら、東京の歴史と地形を学ぶ散歩道に活用できそうだ。

○旧街道などをつなぐ街歩き観光コースの提案や、滝野川などの密集市街地の再生の手がかりとして空地整備、道路整備、あるいはお祭りなどのコミュニティ活動の根拠としてみては。

○都心に近いが、その分、道をまちづくりに存在活用するのは難しいと思う。

○「古道を活用する」となると、難しいと思います。



大山の旧川越街道商店街



田端の古地図商店・忠敬堂

8◆その他、今回の企画や気づいた点などについて

○商店街、住宅地、高速沿い、崖上、区画整理中等、めまぐるしく風景が変化していくコースでした。要素が盛りだくさんで、最後の方は、古道を歩いている企画であることをほとんど忘れていましたが、とても充実した楽しい1日でした。(H. M)

○土地の高低、道の曲がり方、交わり方(平面的・立体的)などを、たくさん感じられるなかなか魅力的なコースだったと思います。自分の足で、そういったことを確認できたことはとても興味深くて面白かったです。ありがとうございました。(M. Y)

○いつも歩いている道が、古代東海道だとは思いませんでした。板橋区は、現在でも道路ネットワークの要所なのですが、古代からそうだったとは、区民にとってちょっと嬉しいです。(Y. M)

○大山商店街の賑わいには驚きました。(S. K)

○千川から三ノ輪までは、鉄道で行くと結構遠い感覚があるが、歩いてみるとそれほどでもなく新鮮な感じを受けた。もっとも、このような方向の移動需要はあまりないと思うが。(T. K)

○今回の企画は「放射線状の道をメインに地理を考える」という感覚が通用せず、普通の街歩きのはずが方向感覚がずれてしまいました。(T. I)

○田端八幡神社付近の環境が、都市計画道路をつくるための区画整理事業により、壊されようとしているように見えてしまいました。検証のため、整備後にまた見に来たいと思います。(M. F)

○今回、東京低地に下りた場所を、現在の西日暮里駅のところだろうと推測して歩いた。その理由は、明治14年の地図で、確かにそこがくびれているからだ。ただ、現地は、両側が高い擁壁になっていて、近年切通したようにも見えた。もしもそうだとすると、下りた場所は、あそこではないのかもしれないと思った。でも、明治14年の地図だと、あそこは両側とも鋭くがっているから、近年、広げるために拡幅したのだろうか。もっと古い等高線の入った地図があると面白いのだが。(T. S)

■主催者より、ひとこと・・・

今回のコースは、メンバーにゆかりのある場所が多くありました。まず松野さんのご実家と出身小学校の前を通り、次に私(大竹)の小中学校区を抜け(平塚神社は子供の頃の遊び場でした!）、さらに井手さんの現在の自宅付近を過ぎ、斉藤さんのご出身地を通りました。また、踏切も多く、東上線(川越街道)、赤羽線(中山道)、都電荒川線(鎌倉街道)、常磐貨物線を横切りました。途中、西ヶ原・田端付近で予定以上に時間をとられてしまい、最後は三ノ輪で日没終了になりましたが、山の手から下町まで、住宅地から商店街まで、古代から現代まで、多くの都市の風景を通り過ぎて実体験できたと思います。自分自身に縁のある地域を皆さんと一緒に歩くことができ、とてもうれしかったです。この地域こそが私にとって「東京の原風景」なのです。ありがとうございました。(大竹 亮)



平塚神社門前の平塚亭



田端文士村界隈の桜並木

＜追補＞ 鉄道のある風景



東上線の旧川越街道踏切



赤羽線(埼京線)の旧中山道踏切



道灌山付近の崖地と新幹線



富士見橋から見る山手線切通り



西ヶ原の都電踏切と撮影隊



常磐貨物線の日暮里踏切